

4 活動報告（Ⅲ 地域貢献）

①「美馬市観光交流センター事業」及び「地域がキャンパス推進事業」推進研究

県西部地区及び南部地区のスーパーサテライトオフィスを拠点に、県西部に位置する美馬市の重要伝統的建造物群保存地区での伝統文化継承事業及び実践型地域ビジネス事業に関する取組みと、県南地域をキャンパスに見立て、地域の歴史や課題を学ぶ取組みを行っています。

より密接な連携自治体との連携の下、地域のニーズを広く受け止め、地域再生・活性化を推進しています。

「美馬市観光交流センター事業」及び「地域がキャンパス推進事業」推進研究採択研究課題一覧

平成26年度

番号	研究代表者		研究課題名
	所属	氏名	
1	文学部	須藤 茂樹	寺院文化財活用に関する基礎研究
2	生活科学部	有内 則子	美馬市観光交流センター事業推進研究

平成27年度

番号	研究代表者		研究課題名
	所属	氏名	
1	文学部	須藤 茂樹	寺院文化財調査研究スタッフ育成プログラムの開発
2	文学部	太田 剛	学生の書道の技術・表現力を生かす地域貢献
3	生活科学部	有内 則子	藍染めなどの伝統文化継承事業—生産文化に着目して— (藍染め、藍の基礎研究、高校と共同研究、養蚕の復活)
4	看護学部	橋本 茂	過疎化が進む徳島県西部地区の医療・福祉を担う次世代の人材育成 — 看護学部生によるキッズナースの育成—

※ 平成27年度実施の1の研究課題については活動の中心が平成28年に実施されるため、平成28・29年度実績報告書に掲載の予定

活動テーマ

寺院文化財活用に関する基礎研究

活動の概要

文化財を発見することによる地域振興・観光文化に資するため、平成27年度以降に実施予定の薬王寺をフィールドとした本格的かつ悉皆的調査の、基礎作業として実施した。

代表者名：須藤茂樹（文学部 日本文学科 准教授）

活動メンバー：會田 実（文学部 日本文学科 教授）

平川恵美子（文学部 日本文学科 非常勤講師）

曾我部遥・立井佑佳・廣野友賀・野本竜生（文学部日本文学科2年生）

連携先名：四国霊場23番札所 薬王寺

実施場所：四国霊場23番札所 薬王寺 方丈

活動期間／スケジュール

平成27年 2月24日（火） 調査実施

平成27年 2月～3月 とりまとめ

実施した活動内容

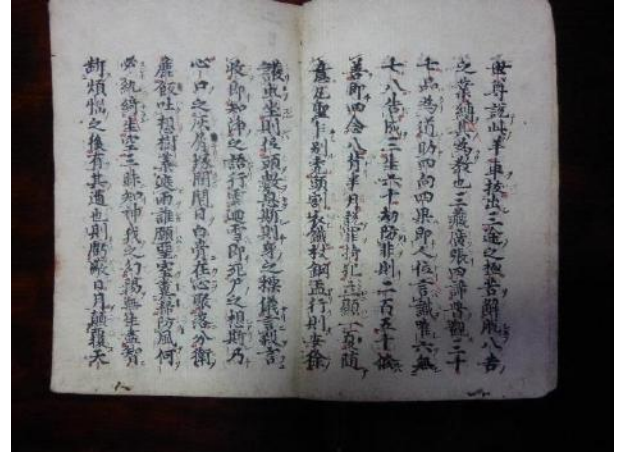
平成27年2月24日（火）10時から16時まで、薬王寺の方丈にて、所蔵の典籍類の確認調査を実施、資料の数量・内容等の把握を行った。

なお、文化財調査の意義を以下に置いている。

- ・ 寺院 寺宝の発見、確認ができる 公開・保存・修理の参考となる。
- ・ 自治体 文化財の発見・指定・保存の参考となる。
- ・ 地域 学校 郷土学習の素材となる 郷土に誇りを持つ。
- ・ 住民 「地域」に誇りを持つ 観光・経済振興につなげる素材となり得る。
- ・ 大学 大学の地域貢献に資する。
大学教育に活用できる 教材化 授業の手法が広がる。
- ・ 学生 実物資料を使った生きた授業を受けることができる。
実物から得られる感動。
受動的講義から能動的な授業参加になる。
お寺の方々、行政職員、町おこし隊ボランティアの方々などさまざまな人々と接し、コミュニケーション能力を身に付けるとともに自ら考え行動する能力を学ぶことができる。
博物館学芸員資格取得者にとって有益な経験となる。

また、別の取組であるが「地域がキャンパス事業」の成果として、平成27年3月に、学生・卒業生と共に調査した薬王寺境内の文化財を集成した『薬王寺境内案内』を刊行した。

実施した活動内容



活動成果

難解なものも多く容易に解読をすることは困難ではあったが、学生たちは史料そのものを手にし、感動をもって作業にあたっており、研究手法は格段に身についたと思われる。

このことから、当初目的としていた地元の宝を発見する能力の育成、調査研究を通じた問題解決(特に企画構成)能力の育成、博物館学芸員資格取得希望者に必要な能力の育成に、この活動は有効であると考えている。

今後、研究の進展により、学生自らが成長を実感できる活動に発展させられるのではないかと感じている。

課題及び今後の展望

作業結果を大学に持ち帰り、今まで詳細が不明であった薬王寺と日和佐の町の歴史、四国霊場の歴史と文化を明らかにすることを目指した平成27年度以降の調査の計画や方向性について検討をおこなった。

その結果、来年度から今回の成果を基に計画的に典籍類・古文書類の本格的な調査に入ることとした。

また来年度は、学生の調査技術の向上を図ることに留意して、夏休み後半と春休み後半に宿泊または日帰り調査を実施し、採寸、カード記入など基礎データの蓄積を行う予定とした。

活動の概要

美馬市の伝統技術である和傘作りの伝承活動と県西部における藍の普及活動を推進する。地域おこし協力隊と協同しながら学生の提案による地域に根ざした商品開発に取り組み地域活貢献と活性化を推進する。

代表者名：有内 則子（生活科学部 生活科学科 講師）

活動メンバー：生活科学部 生活科学科 2・3年生

連携先名：美馬和傘製作集団、美馬市地域おこし協力隊、美馬市商工観光課

実施場所：美馬市脇町 藍ランドうだつ、吉田家住宅、四国大学

活動期間／スケジュール

平成26年12月24, 27, 平成27年1月14, 21, 28, 2月4日 和傘製作実習

平成27年3月8日 うだつ ドソレイユ 参加

平成27年3月14～3年22日 藍染・和傘展開催

実施した活動内容

【和傘製作】

吉野川は暴れ川として恐れられてきた一方、肥沃な土を運び、豊かな実りをもたらしてきた。美馬市はかつて藍の集積地として栄えたことに加えて、この吉野川沿いでとれる良質な竹を使った美馬和傘が伝統工芸として残っている。しかしながらその技術を受け継ぐ後継者が不足しており、伝統を引き継いでいくための後継者育成が課題となっている。そこで若い世代へ和傘の魅力を伝え関心を持ってもらうことを目的に、生活科学科3年生8名が和傘の製作体験を行った。指導は美馬和傘製作集団が担当し、5回に渡って実施された。学生は和傘の構造、和紙と絵の具の特性を知り、和傘に適したデザインを考え、自分で組み立てることで、ものづくりに対する真摯な姿勢と、職人の高い技術を体感した。また伝統文化と若い世代の新しい発想を組み合わせることで、和傘の新たな可能性を探り提案を行った。



実施した活動内容

【藍染商品制作等】

地域に根ざした商品開発を目的として美馬市、脇町をイメージするデザインを考え、藍染用の型染め作品として制作した。学生は美馬市の特産品や歴史を調べ、「みまからとがらし」や、「デ・レイケ公園のチューリップ」、「オデオン座」、「うだつの格窓」などをデザインし、型染めのハンカチとして仕上げた。

四国大学マスコットキャラクター「しこぽん」の型紙も制作した。



また、地域おこし協力隊員主催の「うだつ・ドゥ・ソレイユ」での作品紹介、販売活動にボランティアとして参加し、イベントの賑わい作りに貢献した。(平成27年3月8日(日))



和傘体験 学生のレポート

宗本真里奈: 抜粋

和傘の魅力を知ったうえで製作に挑むスタイルが望ましいと思います。和傘職人さんたちに教わりながら製作することで和傘の良さを学びながらデザインを考えることが出来ます。近頃インターネットでデザインのみ送り、完成したものが送られてくるといったコンテンツが増えていますが、実際に素材や本物に触れる良さを体感できるシステムを組み、製作することが適しているのではないのでしょうか。今後様々な人が和傘のデザインを通し、和傘の良さを感じ、日本の文化が伝わっていくよう強く願います。

南佳江: 抜粋

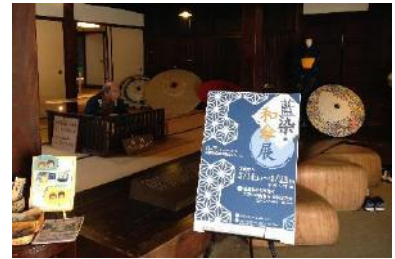
和傘制作を体験して、今まであまり触ったことのない和傘を身近に感じる事ができた。和傘のデザインについては傘を差すためだけのものではなく、オブジェやストラップなど小さく持ちやすい形状のものがあれば良いと思う。卓上に飾れる20cmくらいの大きさの傘や7cmくらいの小さなものなら紐をつけてストラップにできないかと思う。体験するとき初めてならば小さめの傘からすればやりやすいと思った。

活動成果

学生はそれぞれの活動を通じて、自分の好きなモノを作るのではなく、商品としてのデザイン、ものづくりを体験した。また、「売れる」デザインとは何か、手作りによる「商品」の価値について考えることができた。

成果発表として、脇町の吉田家住宅で、「藍染・和傘展」と題して、藍染作品と和傘の作品展示を行った。また同時に、生活科学科卒業制作作品の一部と「大学COC事業」紹介パネルの展示を行った。学生は展示作業を通じて客の導線の作り方、空間の仕切り方、色合わせなど効果的なディスプレイ方法について学習した。また、「藍染・和傘展」のポスター制作も3年生南佳江さんが担当した。

3月12日(木)の展示作業中に美馬市広報テレビの取材を受け、美馬市との連携により取り組んだ内容についてインタビューに答えた。



課題及び今後の展望

平成27年度もクラフトデザイン、テキスタイルデザイン等の授業において、美馬和傘の伝統技術継承や、藍染商品の開発を実施する予定である。

平成27年度には美馬市観光交流センターが竣工予定である。うだつの町並みの賑わい作りとして作品展やワークショップを実施したい。

活動テーマ

藍染めなどの伝統文化継承事業 ―生産文化に着目して―
(藍染め、藍の基礎研究、高校と共同研究、養蚕の復活)

活動の概要

美馬市の伝統技術である和傘作りの伝承活動と阿波藍に関する生産技術の伝承活動に取り組む。地域おこし協力隊らと協働しながら学生の提案による地域に根ざした商品開発に取り組み地域貢献と活性化を推進する。

代表者名 : 有内 則子 (生活科学部 生活科学科 講師)

活動メンバー : 瀬部昌秀(生活科学部 生活科学科 准教授)
生活科学部 生活科学科 2・3年生

連携先名 : 美馬和傘製作集団、美馬市地域おこし協力隊、美馬市商工観光課
上板町新居阿波藍製造所、BUAISOU工房

実施場所 : 美馬市脇町 藍ランドうだつ、吉田家住宅、四国大学、阿波手づくりおもちゃ館

活動期間/スケジュール

平成27年5月22日(金) 美馬和傘製作集団工房見学

平成27年5月29日(金), 6月5日(金), 12日(金), 19日(金), 26日(金) 和傘製作実習

平成27年8月8日(土) 美馬市脇町「うだつの町並み」見学および上板町藍工房見学

平成27年10月24日(土) 阿波藍すくもづくり体験実習

平成27年12月3日(木), 10日(木), 17日(木) 藍染木のおもちゃ製作実習

実施した活動内容

【和傘製作】

生活科学科3年生10名が和傘の製作体験を行った。指導は美馬和傘製作集団が担当し5回に渡って実施された。学生は工房の見学も行い、和傘の材料である竹の切り出し方法、組み立ての一部を体験した。実習では自分の持ちたい和傘デザインを考え、自分で組み立てることで、「ものづくり」に対する真摯な姿勢と、職人の高い技術を体感した。

また伝統文化と若い世代の新しい発想を組み合わせることで、和傘の新たな可能性を探り、和傘をより身近に感じるための提案を行った。



実施した活動内容

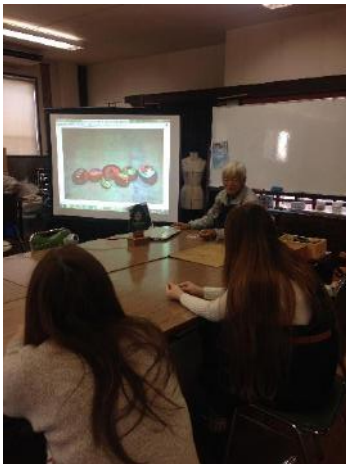
【阿波藍生産技術伝承事業】

徳島の発展を支えてきた「阿波藍」について藍植物の栽培から染料作り、染色理論の習得と作品作りまでを一貫して学び、現状と問題点を探る。大学での実習に加え、藍染料「すくも」を生産する新居阿波藍製造所、若手藍染ユニット「BUAISOU」を見学し伝統的な染料作りについて学び、また、かつて、藍の集積所として栄えた美馬市脇町の「うだつの町並み」および藍商屋敷「吉田家住宅」を見学し、阿波藍発展の歴史を学んだ。



【藍染作品の創作】

藍染の新たな利用の可能性を探るため、桐、杉材など木材を藍染し、その染色性の検討と作品の試作を行った。木材加工、組み立てなどは、四国大学附属幼稚園研究顧問の井村雄三先生に協力をいただいた。まず子供の遊びについて実際に木のおもちゃを用いて特徴や遊び方を検討した。次に「阿波手作りおもちゃ館」で試作を行った。



学生のリポート

【阿波藍の文化を継承・発展するために】石井慧: 抜粋

今回の見学研修で、阿波藍の現状を実際にこの目で見て聴く貴重な体験ができたと思います。海外でも活動をしている「BUAISOU」の方から阿波藍に対して強い思いを感じました。阿波藍を広めることも重要だけれどその上で自分たちが何より強い信念を持つことが次世代に継承していく中で一番重要なことなのかもしれないと思います。そういったことも大切だし、阿波藍を伝えていく方法も必要だと思います。例えば、地域の人や団体と協力して阿波藍を使った藍染ブランドづくり、商品開発をしたり、特に私は阿波藍に携わっている人や場所などを紹介するポスターを作ってみたりするのがいいかもしれないです。

阿波藍を色んな人に知って貰うために、私は阿波藍に携わる人を紹介することが大切なことだと見学研修に参加して思いました。私は藍の染料のすくもを作る大変さを知って貰うことや今回の見学研修で猛暑の中、作業をする方たちを見て思ったのとこれらを伝えることが阿波藍の文化を知ってもらえる方法だと感じました。また、藍染の教室やワークショップを開く「BUAISOU」やその他の団体などがあることを紹介すること、阿波藍に関わっている多くの人たちを知ることが藍の文化の継承・発展することにつながると思いました。

活動成果

徳島の伝統的な生産文化を体験することで、先人達の知恵、郷土の誇りを感じ取ることができた。学生は自らの学びと連動させ、地域の魅力を再考するために、教材・商品開発や県内外へ情報の発信の必要性を感じている。中には、阿波藍や養蚕文化の復興のために自分の将来の進路も含めて考えている学生もあり、郷土愛に満ちたキャリア構築を図る実践の場として、この活動は有効であったと言える。

実習等で制作した作品は美馬市で作品展示を行う予定となっている。



課題及び今後の展望

クラフトデザイン、生活文化論演習等の授業において、徳島の生産文化に関する体験学習を実施した。和傘製作では新しい和傘のデザインを提供するだけでなく、骨組み作りから取り組むことができればより深く伝統技術継承の意味を持たせることができるのではないかと考える。少人数で卒業制作などで取り組むと良いのではないだろうか。

美馬市観光交流センターが竣工し、和傘と藍染の工房が設置された。学生の作品展示やインターンシップなどで実践活動の場として活用したいと考える。



活動テーマ

藍染めなどの伝統文化継承事業—生産文化に着目して—
(藍染め、藍の基礎研究、高校と共同研究、養蚕の復活)

活動の概要

徳島県の発展を支えてきた養蚕事業を学び、これからの養蚕文化を継承・発展するためにどのような取り組みをするべきか現状を知り探っていく。また、美馬市の蚕糸会館の見学と繭からの製糸過程の体験を行い、養蚕文化発展の歴史を学ぶ。

また、藍に関する研究を高校生と共同研究することで高大連携をすることで学びの発展を図る道筋を探ることができる。

代表者名：有内 則子（生活科学部 生活科学科 講師）

活動メンバー：瀬部昌秀（生活科学部 生活科学科 准教授）
生活科学部 生活科学科 2年生

連携先名：特定非営利活動法人 美馬蚕糸館

実施場所：美馬蚕糸館、四国大学

活動期間／スケジュール

平成27年4月～12月 藍の栽培と生育観察、種子の採取

平成27年10月6日（月）～21日（火） 養蚕実習・観察

平成27年10月24日（金） 美馬蚕糸館見学

平成27年11月～12月 糸作り

実施した活動内容

- 1 養蚕の生産文化や技術の保存と継承を目的に、まず、徳島県における養蚕事業の歴史について学び、藍の家にて約2週間の養蚕実習を行った。100頭の蚕をグループ毎に分け、毎日昼に餌やりとそうじを行い、繭に仕上げた。次に繭から手紡ぎによる糸作りを行い、精練、染色をし、製品化への可能性を探るため、試作を行った。
また、美馬蚕糸館への見学を行い、製糸産業の歴史や作業工程を学んだ。



実施した活動内容

養蚕実習

2週間の間に一度脱皮し、その後「まぶし」と呼ばれる仕切りの間に入り、繭作りが始まる。



美馬蚕糸館見学

前田氏から養蚕の歴史、製糸過程や機械の説明を受けた後、生糸の座繰りを体験した。養蚕文化の継承と復興を目指しどのような取り組みができるかについて学生と話し合いを行った。



糸作り

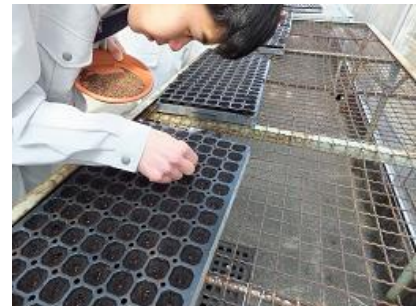
繭を炭酸ソーダで炊き、ほどいて少しずつ伸ばしながら糸を引き出していく



2 高校との共同研究(種の保存、生育基礎研究)

高校(城西高校、吉野川高校)と藍の栽培品種の種の保存と生育調査を行った。

保存品種名(大千本、千本、粉上粉、紺葉、百貫、宮城、松江、広島神辺)大学と高校が分担して栽培し、種の保存に取り組んでいる。



- ・ 種まき(4月10日(木))
トレイに、は種子した。
10日間で発芽した。
- ・ 植え付け(5月12日(月))
プランターで管理する。
- ・ 種の収穫(11月13日(木))
* 管理は栽培場所を離して交雑を避けた。



学生のレポート

○ 村田和佳子:抜粋

建物の奥には実際に使われていた紡績の機械も保存されていた。電気を通せば今でも使用できるらしく、かつて富岡製糸場で稼働していたものと同じものとのことだった。手動の糸車から、大きく精密な機械への流れが、日本の製糸産業が時代と共に発展していったのを実感した。

明治時代には蚕の糸を紡ぐ機械が嫁入り道具であり、その技術がないと嫁の貰い手がないといわれるほど市民の生活に根付いていた養蚕業も合成繊維の開発や、外国産の絹糸の進出によって、現在では下火になっている。日本の養蚕業の中心であった群馬県の富岡市では昭和49年に2,360戸あった養蚕農家が、平成21年には19戸にまで減少した。徳島の藍産業も同じように養蚕農家の高齢化や後継者不足が問題になっている。養蚕農家の減少の問題を改善するためには、後継者の育成が要である。富岡市では希望者に蚕を繭にするまで育ててもらった養蚕体験や、地域おこし協力隊を募って養蚕の技術を次世代へ継承する取り組みを行っている。

授業の中で初めて体験した養蚕はとても興味深く、おもしろく、そして消えつつある技術であることをとても惜しく感じた。養蚕の技術を後世に残していくためにも、かつて日本の産業を発展させた養蚕・製糸業の歴史や文化をこれからもっと知りたいと思う。

○ 藤田加奈子:抜粋

初めて蚕を目にした時、昆虫が苦手な私は本当に怖くて蚕を近くで見ることが出来なかった。しかし、養蚕を続けていくうちにだんだんと愛着が湧いていき、繭になる頃には寂しさを感じた。蚕はとてもデリケートな生き物なので、温度が18℃以下になるとほとんど活動をやめ、15℃以下ではエサを食べなくなる。私たちが養蚕をしている時期は、ちょうど季節の変わり目で朝夕の気温差が激しい日が続いていたのだが、無事に養蚕も成功し、繭を作ることができた。

繭から作られた生糸は、30gの布を作ろうと思えば捨て糸も含めて約100個の繭が必要となる。実際に養蚕を体験したので、その100個全てがああ蚕だったのだと思うと、生糸の一本一本が尊く、一枚の布がより一層美しく感じられた。生き物の命をいただいて作られる文化なのだから、より多くの人にその価値を知ってもらい、伝承していけたら良いと思う。

まずは自分にできることを見つけ、徳島を活性化させるという意識を持つことが大切である。

活動成果

- 1 養蚕の過程を経験し、実習で生産した繭から糸を作ることができた。実習で制作した繭、糸を用い、蚕糸館や観光交流センターなどでお土産として販売できる商品を企画する予定である。

また、養蚕文化を伝承していくための方策について提案を行う予定である。

- 2 徳島の藍栽培を支える品種を分散保存することができ活動を通じて地域文化の振興の必要性を実感させることができた。



課題及び今後の展望

- 1 養蚕を通じて徳島の文化を見直すことができ蚕の命を扱う経験から、ものづくりの成り立ちや自然・資源について深く考えることができた。

この経験は今後も継続していきたいと思う。繭や絹糸を生かした商品開発やプラン作りは織物の知識や技術が必要であり、専門家の協力が不可欠だと感じる。

また、養蚕の文化を伝えるパンフレット作りや繭のアート作品制作など、授業教材として大いに活用できるのではないかと考える。

- 2 高校との共同研究

藍の種の保存と生長の基礎的観察を繰り返し、品種間の特長を特定したい。

活動テーマ

学生の書道の技術・表現力を生かす地域貢献

活動の概要

学生が地域の人々と交流しながら、その状況を考えつつ、書道作品を各地の施設に効果的に展示したり、看板・バナー制作をしたり、書道パフォーマンスを実行することで、イベントの成功や地域活性化に貢献した。

代表者名：太田 剛（文学部 書道文化学科 教授）

活動メンバー：書道文化学科教授（蓑毛政雄・辻尚子）、および学生全員

連携先名：美馬市観光課、小星プロジェクト、徳島市両国本町商店街

実施場所：美馬市脇町、徳島市両国本町商店街

活動期間／スケジュール

平成27年4月～12月

平成27年7月：オデオン座「歌と灯りと書の共演」 7～9月：スカイピア「希望の書展」

4月～平成28年1月：両国本町商店街バナーと18店舗内の作品展示、

10月：うだつまつりバナー、 12月～2月：「うだつをいける」和美共感書道展、

実施した活動内容の一部

平成27年7月

脇町オデオン座で「歌と灯りと書の共演」
ステージバックと看板（地元の方と）



7～9月：「希望の書展」

脇町小星地区のスカイピアで壁面展示



平成27年10月：「うだつまつり」バナー

脇町「うだつまつり」各ブースのバナー制作



12月～2月：「和美共感書道展」

脇町「うだつをいける」に吉田家住宅で
看板制作と、土蔵内での作品展示



学生のレポート

書道文化学科4年 神農藍里：

卒業研究として1年間この活動に関わってみて、これからの書道は「人と人とのコミュニケーションを通じて作品が生まれる」という新たな分野への拡大や発展が期待できることがわかった。コンピュータがさらに発達していく社会で、人間のつながりが求められている今、書道という古典的な芸術の存在価値は意外に大きい。今後はコンピュータの持つ高度な処理能力を活用しつつ、書道の持つ伝統やコミュニケーションの力を合わせて新たな文化の領域を作っていくことが可能なのではないかと思う。

書道文化学科4年 永岡華菜：

私は、脇町の「うだつをいける」のイベントで、吉田家住宅の前に飾る看板を書かせていただいた。期間中、2万人以上の方に見ていただく作品を書くことができ嬉しかった。

書道が生活のいろいろな場面で使われて、その魅力が大勢の人々に伝わることで社会に潤いができるような気がする。これからもこのような機会を自分で見つけたい。

学外協力者レポート

美馬市脇町小星地区「小星ファンクラブ」代表 中妻淳一氏：

書道文化学科の先生や学生の皆さんとの交流の中で、斬新な書道表現に触れ、地域の皆が書道に親しむようになり、文化的生活の発見や歴史の再認識があった。孫に書道を習わせ始めたり、自分自身で書道を再開した人も多い。私を含めた中高年の住民が若者の刺激を受けて活力をいただき、視野を大きく開かれて、新たな地域活動を始めようとしている。四国大学には本当に感謝している。

徳島市両国本町商店街 ウッドアイビス経営者 新居綾路氏：

書道に対しては、和の古いイメージしかなくて、現代的な空間には合わないと思っていましたが、学生の皆さんの展示内容を見て認識を変えた。学生の活動が触媒となって、商店街のメンバーの結束力が増す効果が見られた。今後も書道を重視していきたい。

活動成果

1. 地域の様々な施設の活動やイベントを確実に活性化することができた。
2. 学生が地域の人々と交流する中で、社会の厳しさや実践の楽しさを知り、大学で学んだ技術を実生活に生かす方法を模索する気持ちが育ち、就業力を高めることができた。
3. 地域の皆さんが書道の現代社会での新たな活用方法や有益性に気付いて、大切な文化として注目して下さるようになった。
4. 地域の中での四国大学への信頼感が増した。

課題及び今後の展望

1. 大学の従来の仕事が多忙な時期に地域活動が重なると、教員の仕事量が増えて対応に苦慮した。可能な分の仕事をさらに学生に任せていくことで、学生の経験の機会も増やしていきたい。
2. 各イベントでは今後の継続的協力を求められているので、次年度以降も積極的に活動していくが、将来の発展を考えれば、地域の皆さんが自分たちで発想し運営する部分を大切にしたい。

活動テーマ

過疎化が進む徳島県西部地区の医療・福祉を担う次世代の
人材育成 ―看護学部生によるキッズナースの育成―

活動の概要

平成26年度の調査において、地域中核病院や訪問看護ステーションでの人材の不足が深刻な問題となっていることが分かった。それを踏まえ、活動テーマである「地域の医療福祉」に貢献できる人材の育成を目指して、小学生を対象に地域中核病院である半田病院と連携し、当学部生によるキッズナース事業を展開したところ、後に述べる成果を得られた。

代表者名 : 橋本 茂 (看護学部 教授)
活動メンバー : 小川佳代(看護学部 教授)
中澤京子、横関恵美子、江口美希、長尾多美子 (看護学部 助教)
今井杏樹、春日友紀子、谷義隆、佐川真淋、日和田真未他(看護学部学生)
連携先名 : つるぎ町立半田病院

活動期間／スケジュール

平成 27年 5月 キッズナース事業の詳細な計画立案
参加学生の募集(ボランティア)
半田病院に計画提示し、役割の抽出
6月 キッズナース事業のパンフレット作成・配布
7月 参加受付
8月 9日 キッズナース事業実施

実施した活動内容

平成27年度四国大学大学COC事業(キッズナース事業)

- 1 目的 地域のキッズ(小学4～6年生)に看護師(キッズナース)を体験する過程で地域の医療保険福祉に関心を持っていただく
看護学生が既習の看護を小学生に伝えることにより看護観の醸成やモチベーションの高揚につながる
- 2 対象 美馬・三好地区の小学生15名とその保護者
- 3 方法
 1. 大学で模擬授業を体験する。(看護学部生が指導する。)
 2. 看護の立場から病院見学を実施する。(半田病院看護師)
 3. 半田病院看護師、四国大学看護学部生・教員との意見交換
- 4 体験・見学内容
四国大学
 - ① 模擬授業(看護の仕事(仕事の内容、仕事の間、遣り甲斐、等)
 - ② バイタルサイン測定(体温、脈拍、血圧測定を行う。)
 - ③ 聴診器を使用した体験(モデル人形を使用して呼吸の音や心臓の音等を聴く。)
 - ④ 赤ちゃんの着替え(赤ちゃんモデルを使用して着替えの体験)
 - ⑤ 清潔手洗い体験(自分で手洗いを行い、その後、グリッターバッグを使用して測定)
 - ⑥ 白衣の着用(白衣を着用し、記念撮影(病院見学後迄着用))
 - ⑦ 看護学実習室見学
・基礎看護学実習室(7F) 成人・老年看護学実習室(6F)
地域・在宅・精神看護学実習室(5F)つるぎ町立半田病院
 - ① 病院の役割、看護の役割について
 - ② 病院内見学(手術室、透析室、新生児室、薬剤部、放射線部)
 - ③ 看護師の仕事見学
- 5 意見交換
小学生・保護者・半田病院看護師、半田病院長、四国大学学生、教員 (司会:学生)

参加者のレポート

小学生は、

- ・ 赤ちゃんの重さや抱き方、着替えの仕方、血圧や脈拍の測定、手洗いの方法等が分かった。
- ・ 四国大学の建物や演習室に興味を持った。
- ・ 生まれたばかりの赤ちゃんと、生まれてちょっとたった時の赤ちゃんの顔の色が、ぜんぜんちがうこと。
- ・ 手じゅつ室にたくさんの道具があったり、各部屋にたくさん道具があったことです。

保護者は

- ・ 四国大学や半田病院の見学ができてよかったです。受入側が大変だろうなあと思いました。
 - ・ 四国大学では、人形を使い、ていねいに学生さん達が教えてくれ子供も楽しそうでした。
 - ・ ナース服を着て活動することがとてもよかったです！！
 - ・ 半田病院では、普段見ることができない所、手術の服を着てテンション上がったみたいでした。
 - ・ 看護師さんになりたいと考えが変わるぐらいの活動の1日でした。
 - ・ 直接、色々な活動を体験することはとても大切なコトでとてもいい経験になりました。
- と喜んでいただけただけでなく、医療職に興味を持っていただくことができました。

本学学生・学外協力者レポート

半田病院の看護師は

- ・ 本日のことを通して、地元に残り、看護師になってくれたらと思う。
- ・ 自分自身も説明をしっかりと聞いていただき、良い経験になった。
- ・ これからも続けていきたいと思う

との評価であった。

当学部の学生も

- ・ 普段の実習ではなかなか体験できないことをさせていただいた。
- ・ 看護の勉強は大変だがやりがいのある仕事だと改めて感じ、本日参加していただいた子供たちと将来一緒に仕事ができたらと思う。

と、学んだ看護を小学生に伝える過程において職業としての看護を再認識することができ、た。また、地域の医療・福祉について見識が広がった。

活動成果

平成26年度の調査において、地域中核病院や訪問看護ステーションでの人材の不足が深刻な問題となっていることが分かった。それを踏まえ、活動テーマである「地域の医療福祉に貢献できる人材の育成を目指して小学生を対象にキッズナース事業を展開したところ

- ・ 小学生は医療福祉について興味を示した。
- ・ 保護者も地域に魅力的な職場があることが認識できた。
- ・ 保護者の大半は自分の子供は将来地元に残ってほしいと考えている。
- ・ 協力病院看護師も将来病院に『就職してほしい』と思うようになった。
- ・ 学生は小学生に学んだ看護を伝えることにより看護職としての自覚とモチベーションが高揚した。

国の地域完結型医療の実践においても地域の医療福祉を支える将来の人材である小学生対象のキッズナース事業は貢献できると考えている。従って、今後も対象を増やし継続的に実施しその効果を検証していきたい。

課題及び今後の展望

キッズナース事業の目的の一つは、看護学生が既習の看護技術を小学生に伝えることにより、看護観の醸成やモチベーションアップにつながり、地域医療・看護を考える機会にもなることである。

また、当学部の実習病院であり、卒業生が働く地域中核病院との交流により、看護師レベルでの関係性も深まり教育効果が期待できる。

以上のことから、看護学部カリキュラム再編成時に科目として提案したい。そのために、他の実習病院でも実施し、長期にわたり続けることが大切であると考えている。

4 活動報告（Ⅲ 地域貢献）

②SUDAchi(すだち)講座

「サテライト双方向遠隔講義システム」を利用して、四国大学や四国大学交流プラザと、西部地区・南部地区スーパーサテライトオフィスを結び、公開講座(SUDAchi(すだち)講座)を開講しています。

公開講座の内容は、受講者に対するアンケート調査を基に地域のニーズに対応した設定としています。

開講講座一覧

平成27年度前期

講座番号	講座名	講座概要	講師	時間(分)	会場				開講日
					◎:メイン会場	○:遠隔会場	古川	交流	
1	日本の古典と阿波の歴史	『万葉集』『土佐日記』『平家物語』に登場する阿波の地を取り上げ、その歴史上、文学上の意義を考えます。	田中省造 (文学部日本文学科)	90	○	◎	○	○	①5月26日(火) ②6月 2日(火) ③6月16日(火)
2	ことば遊び	『万葉集』最大の歌人大伴家持の歌人としての遊び心、ことば遊びについて考えます。	田中省造 (文学部日本文学科)	90	○	◎	○	○	①5月12日(火)
3	怨霊・御霊・幽霊そして生霊	人間の靈魂の問題について、文学・歴史の多様な側面から探ります。	會田実、田中省造、須藤茂樹 (文学部日本文学科) 佐々木義登 (全学共通教育センター)	135		◎	○	○	①8月17日(月) ②8月18日(火)
4	日本語・英語比較講座	日本語から英語へ、英語から日本語へ訳す場合、なぜ直訳だとおかしくなるのか？この素朴な疑問からスタートし、具体例を用いて楽しみながら日本語と英語の発想や構造の違いを見ていきます。	富山晴仁 (文学部国際文化学科)	90	◎	○	○	○	①8月27日(木) ②9月 1日(火)
5	消費者教育	消費者市民社会へ積極的に参画する地域の消費者リーダーを目指して、環境保全や生活設計について楽しく学び合ひましょう。	加渡いづみ (短期大学部B、C科)	90	◎		○	○	①6月29日(月) ②7月13日(月)
6	心に響く言葉	「心に響く言葉」とはどんな言葉でしょうか？美しい表現や正しい言葉で彩られた文章が、心に響くのでしょうか。そんな素朴な疑問から文章表現の様々な謎に迫ります。	佐々木義登 (全学共通教育センター)	90		○	◎	○	①9月 4日(金)
7	素晴らしい小説の世界	古今東西の小説の中から、傑作と名高い作品や隠れた名作を紹介し、読書の醍醐味を分かりやすく解説します。これから充実した読書を楽しみたいとお思いの方々にご利用いただければと思います。	佐々木義登 (全学共通教育センター)	90		○	◎	○	①9月11日(金)

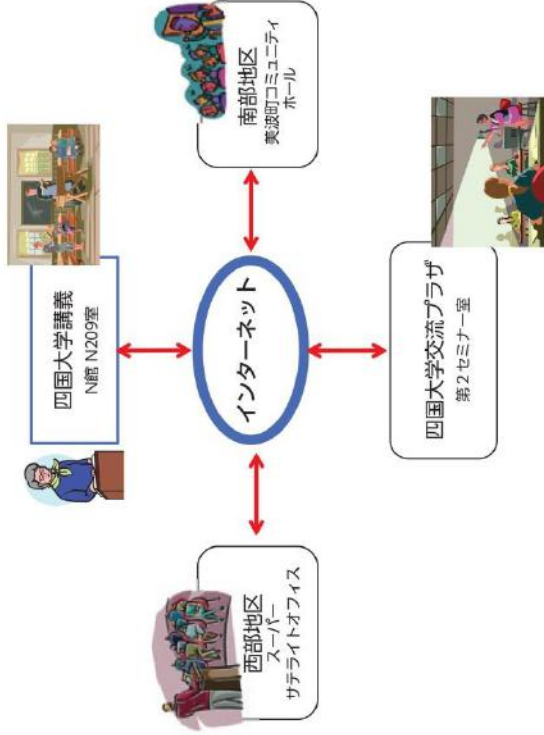
平成27年度後期

講座番号	講座名	講座概要	講師	時間	会場				開講日
					◎:メイン会場	○:遠隔会場	古川	交流	
1	清少納言を巡る人々	清少納言執筆の名著『枕草子』香炉峰の雪の段等を読みながら、清少納言の男性関係、和泉式部との友情、女主人藤原定子との関係などを考えます。	田中省造 (文学部日本文学科)	90	○	◎	○	○	①10月6日(火) ②10月20日(火) ③11月10日(火) ④11月24日(火)
2	知っておきたい、介護のこと	知ってるようで知らない介護の世界を学んでみませんか？もしかしら暮らしの中にたくさんヒントが隠されているかもしれません。生活に密接に関わっている介護について、「今できること」を一緒に考えましょう。	小倉和也 (短期大学部人間健康科)	60			○	◎	①10月23日(金) ②10月30日(金)
3	EQTトレーニング	EQ(心の知能指数)は、人間関係の中で感情を上手に使う能力のことで、トレーニングすればいくらでも高めることができるものです。いろいろなテクニックを使って、楽しく心豊かな毎を送りませんか。	津田祐子 (短期大学部人間健康科)	90	○	◎	○	○	①11月2日(月)
4	食と農の経済学	本講座は「食」と「農」のいまについて学びます。1)食と農の経済の基礎知識、2)食料流通の新しい潮流、3)TPPと農協の問題、を切り口に未来の徳島の食と農のあり方について一緒に考えてみませんか。	宮井浩志 (地域教育・連携センター)	90	◎	○	○	○	①11月9日(月) ②11月16日(月) ③11月30日(月)
5	徳島おもしろランキング ～ データから見る 徳島県の暮らし	「野菜摂取量は低くても野菜ジュースは大好きな徳島人」「阿波女のオシャレは何よりも外見重視」、これってホントですか？様々なデータをランキングしながら、徳島県の暮らしの「へえ～！」を楽しんでください。	加渡いづみ (短期大学部B,C科)	90	◎	○	○	○	①11月20日(金)
6	「地方消滅時代」の徳島県	人口減少対策として、国の指示で「地方人口ビジョン」などを全国の地方自治体が策定しているところである。そこで、本県の人口の現状と将来動向を解説した上で、どのような人口減少対策が考えられるか説明する。	牧田修治 (経営情報学部経営情報学科)	90	◎	○	○	○	①11月27日(金)
7	アンガーマネジメント	アンガー(=怒り)マネジメントは、1970年代の米国で始まった心理教育の一種で、怒ることと怒らなくていいことを線引きし怒りをコントロールするものです。ストレスの多い現代社会の中でとても役に立ちます。	津田祐子 (短期大学部人間健康科)	90		◎	○	○	①12月7日(月)
8	旧約聖書(ルツ記)を読む	旧約聖書は内容が厳しすぎると思われがちですが、ルツ記は、波乱に富んだ士師記の後に続く明るく楽しい書です。ゲーテはルツ記を珠玉の小品と呼んでいます。4章の短い書です。その素晴らしいさを共に味わいましょう。	蔵谷哲也(短期大学部B,C科)	90	○	◎	○	○	①1月22日(金)
9	を楽しむー夏目漱石の文学世	日本を代表する文豪、夏目漱石はいかにして小説世界を構築していったのか？漱石作品をたどりながらその秘密にせまります。予備知識なくお越しいただける楽しい講座です。	佐々木義登(全学共通教育センター)	90	◎		○	○	①2月26日(金) ②3月4日(金)

会場凡例) 古川: 四国大学古川キャンパス N館2階N209教室
西部: 西部地区スーパーサテライトオフィス

交流: 四国大学交流プラザ 4階 第2セミナー室
南部: 美波町コミュニティホール

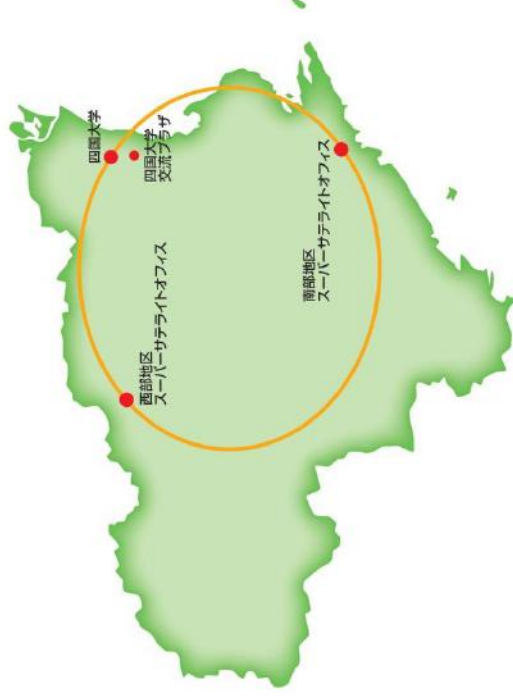
四国大学サテライト双方向遠隔講義概念図



四国大学サテライト双方向遠隔講義プログラム

SUDAchi (すだち) 講座

受講ご案内



問い合わせ・申込み

先進的地域貢献大学を目指して



四国大学 地域教育・連携センター

〒771-1192 徳島市松神町古川字戎野123-1
TEL 088-665-9953 FAX 088-665-9983
E-mail: sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp

四国大学西部地区スーパーサテライトオフィス

〒779-3695 美郷市肥前大字藤1303-3
美郷市肥前市庁舎サービスセンター(旧肥前庁舎)内
TEL&FAX 0883-53-2419 E-mail: shikokuru.ssov@quollanet.jp

四国大学南部地区スーパーサテライトオフィス

〒779-2305 海部郡美波町河内井才天17-1
美波町民センター 美波庁舎内
TEL&FAX 0884-77-3737 E-mail: shikoku-hssoss@me.pikara.net.jp

SUDachi (すだち) 講座とは

SUDachi (すだち) 講座は平成27年度から開始する双方向遠隔講義システムを用いた、生涯学習プログラムです。

主に四国大学又は四国大学交流プラザで行われる講義をインターネット回線を理由して、2ヶ所のスーパーサテライトオフィスに配信し、四国大学教員の講義をお近くで受講していただくものです。

開講科目や内容・スケジュールなどについては、定期的なアンケートにより、ご要望をお受けし、地域のおなさんと相談しながら作り上げていくプログラムです。お気軽にご参加いただければ幸いです。

講座の特徴

- 講義時間** 90分～120分程度
- 講義回数** 1～3回程度
- 対象** どなたでも受講できます
- 受講料** 無料
- 受講場所** お近くの受講場所をお選びください。
- 質問** スーパーサテライトオフィスからでもできます (録画配信の講座を除く)。



● 四国大学地域教育・連携センター
〒771-1192 高松市IG神岡古川字茂子123-1
TEL 088-665-9953 FAX 088-665-9983



● 四国大学交流プラザ
〒770-0831 高松市寺部本町2丁目35-8
TEL 088-602-4858 FAX 088-602-4861



● 四国大学西部地区スーパーサテライトオフィス
〒779-3695 美濃市藤町大字藤町1-303-3 美濃市藤町市民サービスセンター (旧藤町庁舎) 内
TEL&FAX 0883-53-2419 E-mail:shikoku-u.ssov@quollia.ne.jp



● 四国大学南部地区スーパーサテライトオフィス
〒779-2305 美波町美波町内才木17-1 後志農産協賛会農具局 未設庁舎内
TEL&FAX 0884-77-3737 E-mail:shikoku-u.ssoos@me.pikara.ne.jp
● 美波町コミュニティホール
〒779-2305 美波町美波町表町内学本村22-1